

未知なるものを  
探検する喜び

「自分がインストラクターでありダイビングの技術指導をしている者だから、最初は何かができるだろうと思っていました。ところが実際にやってみると、ダイビングを始めずともない初心者も同然になってしまったのです。そこはまったくの別世界。レベルが違いました。しかも慣れない専用装備に振りまわされてしまう状態でした。」

「自分もインストラクターでありダイビングの技術指導をしている者だから、最初は何かができるだろうと思っていました。ところが実際にやってみると、ダイビングを始めずともない初心者も同然になってしまったのです。そこはまったくの別世界。レベルが違いました。しかも慣れない専用装備に振りまわされてしまう状態でした。」

「自分もインストラクターでありダイビングの技術指導をしている者だから、最初は何かができるだろうと思っていました。ところが実際にやってみると、ダイビングを始めずともない初心者も同然になってしまったのです。そこはまったくの別世界。レベルが違いました。しかも慣れない専用装備に振りまわされてしまう状態でした。」



Profile

せきとう・ひろしさん

大阪市松原市の「ダイビングスクールなみよいくら」オーナー、TDIフルコースインストラクタートレーナー、PADI IDC スタッフインストラクター。フロリダで修行した後、日本ケーブダイビング協会を設立するとともに、日本各地の水中洞窟を調査する。豪快な笑顔が魅力的な生粋の関西人。

日本ケーブダイビング協会

www.namiyoi.com/technical\_diving

TDI (テクニカルダイビング・インターナショナル・ジャパン)

www.tdi-japan.gr.jp

「自分もインストラクターでありダイビングの技術指導をしている者だから、最初は何かができるだろうと思っていました。ところが実際にやってみると、ダイビングを始めずともない初心者も同然になってしまったのです。そこはまったくの別世界。レベルが違いました。しかも慣れない専用装備に振りまわされてしまう状態でした。」

未知を切り開く興奮と命の危険の境界を行く

常に危険と隣り  
合わせの水中洞窟

「ヒロヘガマは本当に危険だと思えます。洞口付近は狭い上に入口から下に向けて進入しなければならず、挟まって身動き出来なくなりやすい。ドームに出ても地形が迷路のようなんです。ヒロヘガマも支洞は狭くて危険でした」

「戻るときに狭い空間で先行者がトラップしたら、後の者も全員が助からなくなるようなケーブもあります」

「基本的なダイビング技術を極め、ダイビングにも海にも十分に慣れたという自信があり、なおかつ通常のダイビングに飽き足らない、冒険を求める気持ちがあるのですね。しかし、ケーブダイビングは常に命の危険がある世界です。例えば上級者でも、通常のダイビングで満足しているのなら、むしろ来ない方がいい」

「戻るときに狭い空間で先行者がトラップしたら、後の者も全員が助からなくなるようなケーブもあります」

# 水中洞窟を潜るといふこと

ケーブダイバーになるためには

それでもケーブダイビングに挑戦してみたいと思う人はどうすればよieldろう。日本では数は少ないもののケーブダイビング(ニテカールダイビング)の技術講習をおこなう団体がある。一番初級と言えるカパーンダイバー講習は18歳以上、オープンウォーター25本以上であれば受講可能だ。さらに上を目指すならイントロケーブダイバー講習などもある。講習では専門の装備の扱い方や洞内での泳ぎ、その他必要な知識技術を学ぶ。関藤さんはこうアドバイスする。

インタビュー文|安延尚文

## 水中写真家瀬戸口靖さんに聞く カッコイイ穴の撮り方!

特集カラーページに美しい写真を提供してくれた水中写真家の瀬戸口さん。宮古島などの水中洞窟を見事なまでに美しく幻想的に表現している。水中写真を始めたダイバーなら「あんな写真が撮りたい……」と思うはず。そこで今回は特別にカッコイイ穴の撮り方を教えてもらった。

「洞窟のポイントでは、真暗なシルエットと入口の海のブルーの対比がテーマになります。よい写真を撮るには、まずその黒と青の対比が最も美しく見える場所を探すことが大切です。一カ所に留まらずに、ほんの少し、1~2mでもいいから動いてみてください。すると入口の穴の形など、様子がまったく違って見えるんですよ」

たとえばロタホールは光のシャワーが差し込むのは正午頃だけ。他の時間帯に潜っても見られません。また水面が波立っていても光がシャワーにならないんです。なので、ベストな時期、時間を選んで潜るのも大切ですよ」

「オート撮影の場合、カメラは暗い場所では明るく写るように設定されています。だからそのまま撮ると露出オーバーになるので、穴に入ってすぐに外側のブルーで露出を計ったり、コンデジなら一度撮影してその出来を見て露出補正をしてみましょう」

「宮古島(下地島)の『通り池』かな。外のブルーの海、暗いトンネル、水がグリーン色の池と、景色の変化がスリリングというかおもしろいね。池から浮上すれば水面は鏡のように穏やかで音が何一つ無い静寂の空間が広がる。2つの池の間にある隠し部屋のようなエアドームは、下の穴から漏れる光で水面が緑に光っているように見えたり。いろんな要素があって魅力的です」

#19  
The Voice  
プロに聞きました!

The Professional Voice